

市民フォト

ふくしま夢つうしん

CONTENTS

特集

福島に息づく伝統産業 …2

ふくしまの魅力人

こけし工人

阿部 国敏さん …6

インフォメーション

全国初! 「鎮兵」の文字が書かれた木簡が出土! …8

ふくしまシティハーフマラソン2024

福島市に息づく日本の伝統産業 作り手の技に宿る美と伝統の奥深さ



工房おりをり 鈴木美佐子さん

歴史や文化の中で育まれ、受け継がれてきた伝統産業は、私たちの財産です。革新と再生を両輪に、先人と継承者の知恵、工夫、粘り強い挑戦から生まれる手仕事の品々は、暮らしを彩るだけでなく、時に心のよりどころになってくれることも。
今回の特集は、福島市に息づく日本の伝統産業の中から、作り手の熱い思いを宿す「絹製品」と「刀剣」をご紹介します。



将平鍛刀場 藤安将平さん

桑、蚕種、養蚕、製糸、絹織物：手仕事に宿る先人の知恵を次世代へ



染織工房おりをり主宰

鈴木美佐子さん

1958年白河市生まれ。福島県内の専門学校で和裁・洋裁を学ぶ。卒業後、米沢織りの新田かつさんに師事。その後、自宅で草木染めや織物の制作を始める。川島テキスタイルスクール（京都）を経て2001年、福島市内に工房を開設。織物、紡ぎ、草木染め、羊毛クラフトなどの講習や作品販売のほか、福島の織物文化の研究、担い手育成などに取り組む。

東日本大震災を機に 福島の絹と養蚕に着目

絹や羊毛など、自然素材を使って草木染めや織物をしてきた私が、福島市内に工房おりをりを構えたのは、42歳の時です。亡くなった主人の「今までやってきたものを続けて」という言葉のままに。そんな感じだったと思います。

福島の絹に着目するようになったのは、「もしかしたら自然のものがなくなるかもしれない」という危機感からでした。私にできることを考えて、行き着いたのが絹織物でした。

絹の歴史は、養蚕の歴史。江戸時

「福島だけ」を伝えるため 養蚕も手がけるように

先人から受け継いだ技術がたくさん残っているのが福島なのに、養蚕に関わっている人たちが高齢になっているでしょう。一度途切れたら無くなってしまいうんじやないかと心配で…。養蚕も手がけるようになりました。お蚕さんも最初は苦手だったけど、3年も続けたらいとおしくなってきました。昨年は春、夏、秋、晩秋と飼いました。周りの方の協力もあって、桑の苗木も50本植えました。

蚕種は、伊達市にある富田蚕種製造所から分けてもらっています。個人経営の蚕種屋さんは、全国で富田さんだけになってしまいました。孵化は、温度管理とか湿度管理がすごく大事。田村市にある稚蚕飼育所は、卵から3齢まで育てるところで、なんと東北で一軒だけ。こんなふうに福島だけ、福島だけ、福島だけというのがいっぱいあるのに、それを知らないのはもったいないですよ。



養蚕・真綿づくり・糸つむぎ・草木染め・機織りまで全ての工程を行う工房おりをりの手織機



洗顔パフや出前授業で 絹をもっと身近な存在に

福島の養蚕や絹織物の文化と技術を繋いでいくためには、もっと身近に感じてもらえる何かが必要だと思ふようになりまし。その一つが商品開発です。シルク化粧水とシルク石鹸は、自分で作って使っていたものがすごく良かったので、商品化すれば良さを分かってもらえるのではないかと思いました。お蚕さんのフン（蚕沙）を乾燥させたお茶も考えました。中国では、漢方として古くから飲まれていたそうです。絹100%の洗顔パフ「mawata bijin」は、ふるさと納税の返礼品にもなっています。福島の絹で皆さんの肌がピツピツになったらうれしいです。



左/ふくしま蚕美茶 右/ふくしまの絹化粧水「mayumist」

もう一つは、出張講習と出前授業です。講習会では実技の後、必ず福島の養蚕文化を話すようにしています。小学校の総合学習の講師も受けています。4年間で約1500人に福島の絹の話をしました。総合学習では、お蚕さんを配布して育ててもらうところから始まります。対面授業では、繭をお湯の中に入れ、100年程前の座繰り機で糸にして、お蚕さんの命をいただいていることを教えます。中には「さなぎが死んじゃう」と泣いてしまう子も。その後、ストールや着物を見せて、「お蚕さんの命がこうなったよ」と伝えていきます。これからも私にできることを地道にコツコツ続け、私みたいなお蚕さんを育てたいという人が育ってくれたらと願っています。



ふるさと納税・返礼品 洗顔シリーズ「mawata bijin」 蚕を育て真綿から糸を紡ぎ織るまでを人の手で行い、絹糸の細さと柔らかさを生かした洗顔パフ。肌と同じアミノ酸たんぱく質を成分とする絹100%なのでデリケートな素肌にも安心。クロス、パフ、ミトン（大・小）があります。

「刀をお迎えする」と表現する 女性に新時代の到来を実感

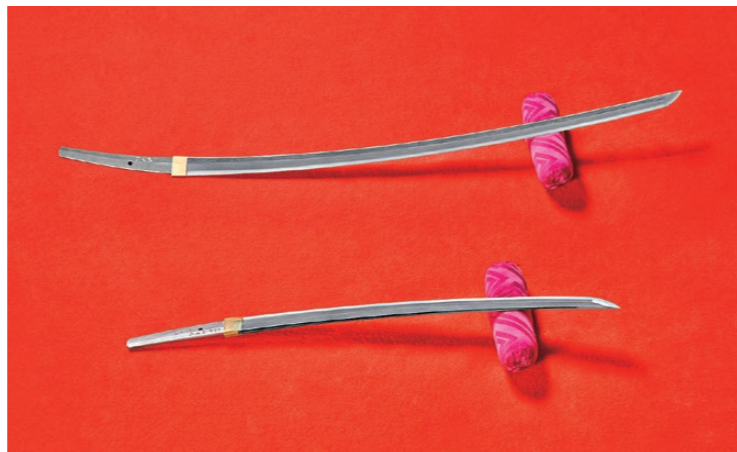
資料がない古刀の再現は、誰にでもできることではありません。古刀が私を選んだように思います。半世紀にわたって追い求める中で、ようやく古刀に共通する特徴が私の作る現代刀のあちらこちらに現れ始めました。進化の証です。今年も古代製鉄炉で銑を精錬するたたら製鉄を行います。今度はクヌギの炭を使う予定です。また作域が広がるのではと期待しているところです。

ありがたいことに、刀の本質を語り続けてきたことが近年やっと伝わってきた部分もありまして、私の考えに共感してくださる方や、私の刀が欲しいと言ってくださる方が増えています。折からの刀剣ブームと相まって、ゲーム「刀剣乱舞」からこの世界に入ってくる女性もいます。頼んだ刀を受け取る際に「刀をお迎えする」と言って、わが子のようによく可愛がってくれています。ようやく刀を取り巻く世界が、本来の姿に戻りつつあると感じています。

鍛刀場も新しい時代に入りまして。今、3人いる弟子のうち2人が女性です。2019年秋からスケジュール管理や企画、販売などを担



将平鍛刀場の前でお弟子さんと。 藤安将平さんの右側が鈴木かなさん、左側が渡辺ちひろさん



上/太刀 平成16年春 将平作 下/脇差 平成9年秋 立子山住人 将平作

刀の持つ大きな力の源は生命力

古刀再現を通して本質を伝える



刀匠 藤安 将平 さん

1946年伊達郡川俣町生まれ。66年、人間国宝・故宮入行平刀匠入門。72年、文化庁の作刀承認を受け、新作名刀展初出品で努力賞を受賞。75年、福島市立子山に鍛刀場を構える。以後、古刀再現を続けながら鹿島神宮、熱田神宮、靖国神社など多くの神社で奉納鍛錬や公開鍛錬などを続けている。共著に『孤高の鎧音』（歴史春秋出版）がある。

古刀は日本人の美意識と 精神性を宿す日本刀の頂点

師匠が書いた『刀匠一代』を読んだ、どうやって刀を作るのか見てみたいと思ったのが、すべての始まりです。19歳で入門を許され、29歳で独立しました。福島市立子山に鍛刀場を開いたのは、同級生のお姉さんが取り持つ縁です。高台で湿気もなく、地表の下が岩盤層。いいところだと思っで決めました。

今、日本にある刀剣類の国宝110数点は、そのほとんどが平安末期から鎌倉、南北朝初期までに作られた古刀です。それ以降のものは一本もありません。江戸時代になると集団戦がなくなったので、新たな価値

観による刀が作られるようになりま す。

要するに刀って何かということなのです。武器をここまで美しく研磨した民族って日本人だけなんです。刀の根源を追っていくと、単なる武器ではなく、身に帯びることまたは家に置くことによって、刀が持つ大きな力で守られるという考えがあります。わが子を、家や、国を守るのが刀。刀の持つ大きな力の根源は、生命力です。一点の曇りもなく研磨されていなければ、そういうものにはなり得ないし、そこに神が宿るといふ考え。これが師匠の思いを継ぎ、日本刀の頂点と位置付ける古刀の再現に挑戦し続けている理由です。



古刀を再現するため、たたら製鉄により古代製鉄炉で精錬された銑



古刀再現の鍵は、鋼ではなく鉄の一種「銑」にあるのではないかと考え、南相馬市で発見された古代製鉄炉を仲間と共に再現。 壱型炉を作り砂鉄から銑を精錬するたたら製鉄にも挑んでいる。



日本刀の作刀工程の一つ、火で鉄を鍛える「折り返し鍛錬」。これにより素材が均質化され強度が増す。

魅

みりよくびと

Kunitoshi Abe

冬は真っ白な雪に包まれる土湯温泉は、遠刈田、鳴子と並ぶ日本三大こけし発祥の地と言われています。江戸時代後期、厳しい冬の間にできる仕事として生まれ、受け継がれてきたこけしには、土地の歴史と作り手の心がこもります。2000年続く伝統を守るうと、19歳でこの道に入った阿部国敏さん。土産屋を切り盛りする多忙な父に代わり、木地を陳野原幸紀氏に師事。阿部家に続く伝統の描彩を祖母と父に学びました。以後、伝統型と本人型を追及し続ける阿部さんをご紹介します。



こけし工房でほほえみがえしを制作する阿部さん

こけし工人 土湯伝統こけし工人組合長
土湯伝統こけし（治助型）製造販売 下の松屋6代目

阿部 国敏 さん

1972年生まれ。曾祖父は、土湯こけし隆盛時代に名人と呼ばれた阿部治助。祖父母、父もこけし工人。1991年、松屋系「治助型」（伝統型）の継承を決意。2005年に制作した「ほほえみがえし」で、伝統こけしの世界に新風を起す。同作品で2009年「うつくしまものづくり大賞特別賞」を受賞。2016年、大正時代の作風を再現した伝統型で第62回全国こけし祭りコンクールの最高賞、文部科学大臣賞・全国こけし祭り会長賞を受賞。



歴史と風土、
工人の心がこもる伝統こけし
奥深くて愛らしい、
土湯のアイドルを作っています

ものは一つとしてないので、お気に入りとの出会いもこけしの魅力です。

思わず笑みがこぼれる 本人型「ほほえみがえし」

胴にろくろ模様を入れる時、阿部さんは、最初に赤を入れます。その後、その時の感覚で間に別の色を入れていきます。伝統の細かい筆遣いは、今も追求し続けているとのこと。

一方、伝統を生かしながら独自に作る本人型は自由になる「ほほえみがえし」は、伝統こけしが主流の時代に、「何とか一般の人にもこけしを手にとってもらえるように」と思っ

たのがきっかけです。

「まず、頭が動くようにしようと思いました。そうなると安定しないので、胴を三角にして。頭と髪飾りは伝統のまま、表情を笑顔にしました」。2005年の「美軀会」で展示すると評判が良く、なんと新作こけし人気投票で1位に輝きました。以来、多くのお客さまの心をつかみ、現在も注文が絶えないそうです。

伝統を背景にもっと広く 親しんでもらえるこけしを

これからの目標を尋ねると、「伝統こけし工人としてスタートしたので、伝統をバックボーンに、もっと

広くたくさんの人に親しんでもらえるこけしを作っていきたいです」と阿部さん。胴や顔にいつもとは違った描彩を入れたり、全く違う印象に仕上げることもあるそうです。「でも、どこのこけしか分からなくなってしまうのはね」と苦笑い。

もう一つの目標は、後継者の育成です。土湯のこけし工人は、現在5人。後継者を育てたいという話をしている最中とのこと。

雪が解けて新緑の季節になると、土湯温泉では毎年6月初旬に「土湯こけし祭り」が開催されます。ぜひ土湯温泉を訪ねて、阿部さんの「ほほえみがえし」と、土湯系の伝統こけしの魅力に触れてはいかがでしょうか。



すべて手作業 伝統の色、形の中に込める物語

こけし工人を受け継いで30年以上になるという阿部さん。「祖父の勝英が亡くなり、ぱったりと途絶えそうになった時に、伝統を守りたいと思い始めました。その頃、父は店が忙しかったので、木地は陳野原幸紀さんに手ほどきを受けました」。描彩については、阿部家に続く伝統の色や顔があることから、祖母のシナさんと父の敏道さんに師事しただけでなく、残っている治助型を見て勉強したとのこと。一体一体違う表情を眺め続けたそうです。

「伝統こけしは、一人で作るのが基本」と阿部さん。日々の制作は、木地だけを作る日もあれば、顔を描くだけの日もあり、その時々で中身が異なるそうです。「どの工程も手作業なので、なかなか数もできませんし、一つ一つ違って当たり前」。同じ



阿部さんの作品。手前が本人型の「ほほえみがえし」で奥が伝統型のこけし



阿部さんの工房が併設されているまつや物産店の店内



こけしの絵つけ体験（950円）は要予約

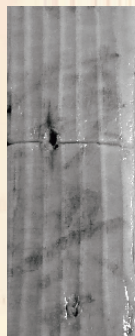
全国初! 「鎮兵」の文字が書かれた木簡が出土!

福島市の西久保遺跡で、全国で初めて「鎮兵」(※1)と書かれた木簡(※2)が出土しました。木簡の出土は、市内で初めてです。

※1 「続日本紀」に記述のある、陸奥国や出羽国を防備するため派遣された兵
 ※2 文字が記された木札

(出羽国、下野国司に牒す。鎮兵死□減之状、郡郷を罪せず。)

出羽国牒下野国司鎮兵死□減之状不罪郡郷



鎮兵

出土した木簡
(赤外線写真)

長さ 29.6cm
幅 2.5cm
厚さ 1.1cm

年代 8世紀末～9世紀初め



▲詳しくはこちら

この木簡は、出羽国から、西久保遺跡周辺にいた下野国の国司に対して、遺跡周辺の地域には鎮兵の死亡に関して落ち度がないことを伝えた書状です。

その経緯は、次のことが想定されます。

- ① 出羽国へ向け、下野国を国司と鎮兵が出発。
- ② 西久保遺跡周辺で鎮兵が死亡。
- ③ 下野国司が出羽国に鎮兵死亡を知らせる書状を送る。
- ④ 出羽国から返答文が届く。(今回出土した木簡)

国や郡には、衛士や防人の療養や死亡に一定の責務があったとされています。この木簡から、鎮兵も衛士や防人と同様の取り扱いをしていたことが分かります。



図文化振興課 ☎024-525-3785

5/19日
開催!

On Your Marks ~未来へ走れ、ふくしま~



ふくしまシティハーフマラソン2024 参加者募集中!

福島市の新たな「スポーツの祭典」、今年も開催!
 昨年の第1回大会では、4,418人のランナーが福島市の街なかを駆け抜けました。
 ランナーのほか、ボランティアやランナー応援隊も募集中! ぜひご参加ください!

詳しくは大会の
ホームページを
ご覧ください▶



ランナー定員 (先着順)

ハーフマラソン 4,000人
 10km 800人
 2km (ペア) 250組500人
 1km (車いす) 25人

ランナーで
参加の方は
こちら▶



ボランティア・
ランナー応援隊で
参加の方はこちら▶



募集締め切り
2月29日(木)

図ふくしまシティハーフマラソン実行委員会 (NCVふくしまアリーナ内) ☎024-503-4325

市民フォト・ふくしま夢つうしん

2024年1月1日発行

2024年1月号 No.55



福島市公式SNS



編集発行 福島市役所 広聴広報課
 〒960-8601 福島市五老内町3-1
 ☎024-525-3710 ☎024-536-9828
 E-mail: kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp

夢通信
バックナンバーは
市ホームページ!



表紙紹介

お弟子さんとともに行う
日本刀の折り返し鍛錬

熱した鉄を何度も折り返しながら打ち延ばすことで、不純物を取り除かれる。飛んでいる火花が不純物。

※次号は2024年4月発行予定です。